

2026年度ドコモ市民活動団体助成事業 申請書

活動テーマ2：30by30目標達成に貢献する活動

NPO法人 モバイル・コミュニケーション・ファンド理事長殿

申請日： 2026年3月●日

<記入の手引き>

団体名：	NPO法人グリーンアース自然学校			
(ふりがな)：	● ● ● ●			
代表者名：	● ● ● ●		役職名：	代表理事
申請区分（新規、継続の別）	新規	申請区分（単独、協働の別）	単独団体	
※プルダウンから選択してください。		※プルダウンから選択してください。		
申請区分（法人格の有無）	法人格有	団体所在地の都道府県	静岡県	
※プルダウンから選択してください。		※プルダウンから選択してください。		

申請 団 体 連 絡 窓 口	団体所在地	(〒 100-XXX) 団体専用 個人宅 勤務先等		
	電話番号	申請書作成にあたっての基本的な考え方（目標・指標の整理等）および各項目の記入例は、 「活動テーマ1 生物多様性の保全推進」と共通です。「活動テーマ1」の記入手引きでは、全ての項目について 記入例を示しておりますので、そちらを参考にしてください。		
	URL			
	住所			
	(ふりがな) 連絡責任者	● ● ● ●		
電話 番 号	(固定)	連絡可能時間帯(日中)		
	(携帯)	090-XXXX-XXXX	連絡可能時間帯(日中)	10時～18時
	E-mail※			

※選考結果通知等の連絡は、2026年8月末（予定）までに文書でお知らせします。

1. 団体の概要

1-1.団体の概要（法人格有の団体向け）

団体種別	<input checked="" type="checkbox"/> NPO法人 <input type="checkbox"/> NPO法人以外の法人格（)					
主な活動分野	社会教育／まちづくり／観光／農山漁村／中山間地域／環境の保全／災害救援／国際協力／子どもの健全育成／連絡・助言・援助					
設立の目的	国内外において、子どもから大人まですべての人を対象にした、良質で適切な自然体験活動および、環境教育、野外教育などの普及、啓発、調査研究、人材育成に関わる事業を行い、地域の文化や自然環境の保全につとめ、もって、持続可能な社会づくりに寄与することを目的とする。					
設立時期	2005/4		(法人格取得時期： 2006/3)			
会員数	正会員	個人	15 人	その他	個人	0 人
		企業・団体	0 件	会員	企業・団体	0 件
団体職員数	常勤	15 人		非常勤	2 人	
ボランティア※	無償	20 人		有償	10 人	

※交通費・食費等の実費補てんを目的とするものは無償として、その他の対価的（日当など）に支払われるものは有償とします。

1-2.団体の概要（任意団体向け）

※任意団体の場合、設立の目的等欄にご記入ください。

設立の目的					
設立時期					
団体メンバー	常勤	人	非常勤	人	
ボランティア※	無償	人	有償	人	

※交通費・食費等の実費補てんを目的とするものは無償として、その他の対価的（日当など）に支払われるものは有償とします。

推薦者（任意団体：必須）

所属・役職				
氏 名				
問合せ連絡先	電話番号		E-mail	
推薦コメント				

※推薦者は、中間支援組織（NPO支援センター・ボランティアセンター・社会福祉協議会などの活動支援団体）の職員で団体の活動状況について把握している方。なお、申請書を作成する場合には、同時並行で推薦団体へ打診するなど、事前の了解を得ておいてください。

<記入のポイント>

入力にあたっての注意点

- ①フォントは、11ポイントで設定されています。
- ②改行は「Alt+Enter」で行ってください。
- ③電話番号は、ハイフンを入れてください。
例. 090-XXXX-YYYY
- ④団体のウェブサイト SNS（Facebook、Instagram等）のURLをご記入ください。

・申請区分（単独、協働の別）

協働申請の場合は、項番10,11（8ページ目）に必要事項を記入してください。

・団体種別

NPO法人以外は法人格（民間の非営利活動法人に限る）を記入してください。

・主な活動分野

NPO法人は、NPO法に規定する主な活動分野、それ以外の法人は、主に活動している分野について記入してください。

・推薦者（任意団体：必須）

任意団体の場合、推薦者名と推薦コメントが必須となりますので、事前に推薦者にコメントの作成を依頼し、その内容を記入してください。

（氏名の記載については自署の必要はありません）

注意：審査の過程において、MCF事務局から推薦者に確認の連絡をさせていただく場合がありますので、事前に了解を得ておいてください。

2.団体の財政状況

(1)2025年度 決算見込（経常収支）

経常収益	14,100,000	円	経常支出	14,100,000	円
------	------------	---	------	------------	---

※申請書記入日時点の見込額を記入してください。

(1)2025年度 決算見込（経常収支）

申請書記載日時点の見込み額を記入してください。

(2)2025年度 経常収益内訳

※収入（会費・寄付・自主事業・受託事業等・その他）区分で記入し、その対象をそれぞれ主要なものを2つまで記入してください。

会費	50,000	円	0.4	%		
寄付	2,000,000	円	14.2	%		
自主事業	6,500,000	円	46.1	%	① 主な対象 児童生徒（小1～高3）	6,000,000
					事業内容 自然体験プログラム	
					② 主な対象 児童生徒、親子（年中・年長）	500,000
					事業内容 キャンプ事業	
助成金等	1,700,000	円	12.1	%	① 助成元 一般財団法人〇〇	500,000
					事業内容 〇〇保全プロジェクト	
					② 助成元 NPO法人〇〇	1,000,000
					事業内容 発達障がい児向けの自然体験プログラム	
受託事業	3,800,000	円	27.0	%	① 委託元 〇〇プロジェクト	2,000,000
					事業内容 〇〇教育センタープログラム業務委託	
					② 委託元 〇〇県	1,800,000
					事業内容 研修業務委託	
その他	50,000	円	0.4	%		
合計	14,100,000	円	100.0	%		

(2)2025年度 経常収益内訳

申請書記載日時点の見込み額を記入してください。

(3)2026年度予算

経常収益	14,200,000	円	経常支出	14,200,000	円
------	------------	---	------	------------	---

※申請書記入日時点の見込額を記入してください。

(3)2026年度予算

申請書記載日時点の見込み額を記入してください。

3.活動テーマの分類

活動テーマを1つプルダウンから選択してください。

(2) 30by30目標達成に貢献する活動

最も該当する活動テーマを1つプルダウンから選択してください。

2.「自然共生サイト」認定後の活動のステップアップを目的とした活動

上記回答で「その他」を選択した場合、下記欄に具体的活動テーマを記入してください。

--

4.この助成金で達成したいこと

(1)活動タイトル及び活動概要

今回の助成金を活用して実施する活動のタイトルとその概要について、背景や課題とともに記入してください。

活動タイトル および活動概要	活動タイトル（40文字以内）
	自然共生サイトを起点とした、参加型活動を通じた人材育成
	活動概要（300文字以内） ※申請書全体の要約として具体的かつ、活動概要を分かりやすく記入してください。
	当該地は〇〇や〇〇といった価値を有し、202X年度（令和〇年度）に自然共生サイトに登録された。この場所をさらに維持・発展させていくため、当該地のモニタリングや順応的管理を通じて人材育成を行う。これにより、持続的な形で当該地の生物多様性を保全していくと共に、次世代の担い手を育成し、様々なステークホルダーと連携した強固な運営体制を築いていく。...

活動タイトル（40文字以内）

十分に活動内容が分かるタイトルとしてください。

(2)団体が考える未来のあるべき姿（ビジョン）と社会的役割（ミッション）/現状と課題/今後の活動

団体が考える望ましい社会状況から現状の課題を示し、その上で、今後2年間で実施する活動をまとめてください。

① ビジョン・ミッション・めざす活動基盤 (a～c各300文字以内)		②活動対象地域における生物多様性の保全に関する現状と課題 (600文字以内)	
① a.望ましい社会状況（ビジョン）		② a.活動対象地域における現状と課題（定量的に示してください）	
私たちは、1人ひとりが「人・自然・地域の共生する暮らし」の実践を通して、感謝の気持ちと誇りを持って生きている社会の実現を目指しています。そして、そこに向かうアプローチとして、①誰もが自然・地域の一部であることを自覚し、それぞれの立場で行動している社会づくり、②地域の生物多様性が、維持・回復に向かっていく社会づくり、③地域で多様な生業が成り立ち、定住・交流人口が増え、文化が価値のあるものとして継承されている社会づくりを掲げています。スタッフは、これらに向かう様々な活動を多様なステークホルダーとの協働で企画・実施していきます。		活動対象地域は、〇〇山の裾野に位置し、年平均気温が〇度、年平均降水量が〇mmという環境・気候となっており、豊かな生態系がみられる。 こうした生物多様性保全上の価値が認められ、当該地は202X年度（令和〇年度）に自然共生サイトに認定された。ただし、認定後の維持管理における最大の懸念は「次世代を担う専門人材の不足」である。現状の体制では、最長5年とされる認定期間内において持続的な管理を担保することが難しく、また、認定されたことで継続的なモニタリングや高度な管理体制、データの蓄積が新たに求められている。……………	
① a'.ビジョンをまとめるに至った経緯・理由		② a'.数値データ等の出典	
私たちの暮らしは、豊かな自然がもたらす様々な恵み、共に暮らす人々、地域で育まれる生業に支えられています。このことは、「当たり前」であるがゆえに日常的に意識することが難しく、とすると忘れ去られてしまう視点だと考えます。また、この視点は…		〇〇都道府県・市区町村レッドデータブック（20XX年改訂） 〇〇都道府県・市区町村レッドデータリスト	
② b.団体の課題（250文字以内）		② b.団体の課題（250文字以内）	
上記①のビジョンの実現のため、生物多様性保全の推進は極めて重要な基盤活動となると考えています。ミッションとして以下の3点を掲げます。		（課題1）生物多様性保全に関する専門知識の不足 市民主体の活動で、担い手が不足しているため人材確保が必要である。 （課題2）活動・運営のための資金の不足 …	
① ② ③		③今後2年間で実施する活動 (①と②のギャップを埋めるための活動基盤とアクション)	
③ c.2年間でめざす団体の活動基盤		③ c.2年間で実施するアクション	
① c.団体の理想的な活動基盤 (人的資源(ヒト)/物的資源(モノ)/活動資金(カネ)/情報 等)		③	
●望ましい人的資源： ・生物多様性に関する一般的な知見と、作業に関する現場でのノウハウを兼ね備えた人材 ・活動を持続的に行うための団体運営の知見を有する人材 ・多様な主体をつなぎあわせプロジェクトをマネジメントできる人材 ……………		●人的資源： ・新たな人材が参画し、活動・運営に関与している。 ・外部連携の中で、中間支援を担う人材がいる。 ●物的資源： ・安全かつ効果的にプロジェクトを進めるための資材が揃っている。 ・必要な重機等が利用可能である。 ●活動資金： ・自主事業による一定の収益がある。 ・企業の支援を受け、連携して活動している。 ●情報： ・国際的な情報を常に把握する体制がある。 ・地域でローカルな情報交換ができる体制が整っている。	
●望ましい物的資源： ・現場での活動資材（チェーンソー、仮払い機など） ・中規模以上の重機（竹破砕機など） ・活動拠点（作業小屋、倉庫など） ・プログラム用資材（水質検査キット、長靴など） ……………		●1年目(活動の内容を簡潔にご記入ください。) ①保全管理計画に基づいたモニタリングの実施 ・計画当初の通りに、関係者と共にモニタリング調査を行い、データを取得・整理する。 ②地域のキーマン（地域内部で様々な関係を繋ぎ合わせ、円滑な関係づくりを担う人材）や地域住民とつながりを育むため、 ……………	
●望ましい活動資金： ・個人、団体、企業などからの寄付 ・有償プログラムでの収益 ・企業からの活動援助 ……………		●2年目(活動の内容を簡潔にご記入ください。) ①1年目のデータや現状に基づいたモニタリングの実施 ・保全管理計画を基盤としつつ、最新のデータである前年の結果などを活用し、現状に即したモニタリングや管理を行う。 ②地域キーマン・地域キーマンや住民の参画機会の創出 ……………	

項番4（2）

① ビジョン・ミッション・めざす活動基盤（300文字以内）

① a.望ましい社会状況（ビジョン）

●団体の現在の活動目的を踏まえ、改めて団体内部で議論をして、団体が考える望ましい社会状況(ビジョン)について、わかりやすく記入してください。

●あわせてビジョンをまとめるに至った経緯や理由について、エピソード等を交えてわかりやすく記入してください。
※本項目は、団体の考え方を明確化していただく箇所であり、内容に関する評価等を行うものではありません。

① c.団体の理想的な活動基盤

(人的資源(ヒト)/物的資源(モノ)/活動資金(カネ)/情報 等)

●ビジョンを実現することをめざし、団体の考える社会的役割(ミッション)について、わかりやすく記入してください。

●あわせて団体が考える理想的な活動基盤として、人的資源（ヒト）、物的資源（モノ）、活動資金（カネ）、（情報）について、記入してください。

※本項目は、団体の考え方を明確化していただく箇所であり、内容に関する評価等を行うものではありません。

②活動対象地域における生物多様性の保全に関する現状と課題（600文字以内）

② a.活動対象地域における現状と課題（定量的に示してください）

●申請書項番4（2）で整理した将来的なビジョン、ミッションの内容（①）を踏まえ、現在の状況を確認していただきます（②）。

●活動対象地域における生物多様性の保全に関して、対象となる地域・対象種・集団等の現状や課題について詳しく分析し、記入してください。その際、対象となる生き物の名称や個体数、地域特性などをできるだけ具体的に示してください。記入する際は、活動地域に関する統計情報や団体の独自調査結果など、具体的なデータに基づく客観的な状況把握を行い、可能な限り定量的に記入してください。

※以下の観点を参考に記入してください。

- ・対象地域に生息・生育している在来種・外来種の状況（名称・個体数など）
- ・季節ごとに見られる生き物の変化や特徴
- ・生態系の特徴（例：地形、植生、水系など）
- ・保全上の課題（例：開発による影響、外来種の増加 など）

② b.団体の課題（250文字以内）

申請書項番4（2）で整理した将来的なビジョン、ミッションの内容（①）を踏まえ、団体が、現状どこまでできていて、どこが課題となっているかという観点から、特に団体が抱える課題について、可能な限り定量的にまとめて記入してください（②）。

③ c.今後2年間で実施する活動

(①と②のギャップを埋めるための活動基盤とアクション)

●申請書項番4（2）で整理した、将来的なビジョン、ミッションの内容（①）、また、現状と課題（②）を踏まえ、①と②のギャップを埋めるためのアクションと、活動基盤として今後2年間で実施する活動（③）について、記入してください。

●2年間でめざす団体の活動基盤と、実施するアクションについて、1年ごとに活動内容を簡潔に記入してください。

●記入後、もう一度、①のビジョンとミッション、②の現状と課題、③の具体的なアクションとめざす活動基盤が整合しているか確認し、必要に応じて、修正等してください。

5.活動の受益対象、活動目標及び成果目標の設定

(1)活動の受益対象

(2)を踏まえ、受益対象（動植物、森林・河川など）を明確化した上で、活動の着眼点・ねらいと優先度（高・中・低）を記入してください。
(6件まで記入可)

	番号	受益対象	受益対象の変化・向上のための着眼点・ねらい	優先度 (高・中・低)
活動の受益対象と活動の着眼点・ねらい (具体的な受益対象ごとに変化・向上のための着眼点・ねらいを記入してください)	①	該当種	開花数などが増え、種の存続が保たれる	高
	②	新たな人材	団体の想いや活動への参加の機会が設けられ、興味関心が高まる	高
	③	地域キーマン人材	地域の価値や未来について理解し、連携パートナーが増える	中
	④	地域の子供や住民	地域の価値に気づき、愛着がわく	低
	⑤	市内の一般市民	生活や仕事をする地域の価値に触れ、定住や移住が増加する	低
	⑥	市内外の企業	生物多様性に関する価値を知り、保全にかかわるようになる	低

(2)具体的な活動内容

今回申請する事業について、上記(1)で記入した優先度「高」の**受益対象に焦点**をあて、優先度が高いものを3つに絞って、活動内容を分かりやすく具体的に記入してください。また、活動基盤の強化(人材育成・情報発信)についても、優先度の高い内容を1つ記入してください。

助成期間中 (2年間) [2026.9.1~2028.8.31] の 優先度「高」の活動と活動基盤強化の内容	<ul style="list-style-type: none">●活動内容1.サイトの価値を把握し整理するための基礎的な調査 ・・・2.既存及び新規のステークホルダーとの連携強化や掘り起こし ・・・3.持続的なモニタリングと順応的な管理 ・・・ <ul style="list-style-type: none">●活動基盤の強化の内容担い手人材育成講座からの団体加入促進 ・・・
---	--

(3)活動の目標とその成果目標の設定

上記(2)の活動内容について、それぞれの活動目標と成果目標を具体的に設定してください。あわせて実施前後の状態について、可能な限り定量的に記入してください。また、団体の活動基盤の強化(人材育成・情報発信)についても、同様に記入してください。

活動名	番号	受益対象	活動(アウトプット)の目標 ※1	活動の成果(受益対象の変化・向上=アウトカム) 目標※2		
				想定される活動の成果	実施前	実施後
1 サイトの価値を把握し整理するための基礎的な調査	■	■ サイトの評価対象となる自然環境	事前調査 (基礎調査～特徴理解)	基礎的な調査及びその価値を申請書類の基準に照らし合わせて整理することで、生物多様性の観点での価値を明確化する。 【測定・評価のための指標】 ①基礎調査により明らかになった種数 ②指標値になりうる種数 ③申請書上の「9つの認定基準」に該当する数	①0種 ②0種 ③0個	①100種 ②3種 ③少なくとも1個
			活動期間 2026.10.1～2027.7.31			
2 既存及び新規のステークホルダーとの連携強化や掘り起こし	■	■ ステークホルダー(既存/新規)	既存の関係者との報告会の実施 新規ステークホルダーに対する自然共生サイトの見学会の実施	既存のステークホルダーとの関係強化及び新たなステークホルダーとの連携可能性の検討を行うことで、持続可能な運営を図る。 【測定・評価のための指標】 ①既存の関係者：サイトでの活動への参加回数 ②新規：具体的な連携が図れるステークホルダーの数	①0回 ②0件	①5回(延べ) ②2件
			活動期間 既存：2026.4.1～2026.5.1 新規：2026.4.1～2026.10.31			
3 持続的なモニタリングと順応的な管理	■	■ サイトの評価対象となる自然環境	事後調査 (モニタリング調査～順応的管理)	保全管理計画に即しモニタリングを実施すると共に、状況に合わせて順応的な管理を行うことで、該当地の生物多様性を保全する。 【測定・評価のための指標】 ①基礎調査時からの変化(未確認種の発見、誤同定種の訂正など)の件数 ②順応的管理の視点で保全した面積	①0件 ②0㎡	①3件 ②25㎡
			活動期間 2026.10.1～2028.7.31			
(活動基盤強化) 担い手人材育成講座からの団体加入促進	■	■ 保全の会開催の講習会参加者	講習会開催数 5回/年 講習会参加者数 10名/年	保全の会の講習会に参加することで、その会に加入するだけではなく、加入により会の事業回数などが向上し、その先にある生物多様性の質が改善・向上する。 【測定・評価のための指標】 ①保全の会への加入人数 ②保全の会が実施する保全活動の開催回数 ③保全の会が実施する保全活動への参加人数 ④③による環境改善度合 a広葉樹林整備面積 b人工林整備面積	①0人 ②3回 ③15人 ④ a 0㎡ b 0㎡	①2人 ②5回 ③20人 ④ a25㎡ b25㎡
			活動期間 2026.10.1～2028.3.31			

項番5(1)活動の受益対象

●「受益対象」を設定してください。「受益対象」は、活動や成果によって直接影響を受ける動植物・森林・河川等、また、団体メンバー・ボランティアスタッフ等も含まれます。

●どの受益対象にどのような取り組みをすれば、「効果的な成果をもたらすのか」「課題を解消することができるのか」について検討してください。

●上記で明確化した受益対象について、優先度の高い項目から順番に記入し、上位3項目の受益対象の変化・向上のための1年間の活動目標を設定してください。なお、活動目標が3件未満の場合は、目標を細分化する等、必ず、3件の目標を設定してください。

項番5(2)具体的な活動内容/項番5(3)活動の目標とその成果目標の設定

項番5(1)で設定した受益対象の上位3項目の受益対象の変化・向上のための2年間の活動内容と活動目標を分かりやすく具体的に記入してください。

※3項目の活動目標を設定していただくことを申請条件とします。

助成期間終了後も事業を安定的・継続的に推進できるよう、活動基盤強化の取り組みについて検討し、1年間の目標を設定してください。

※1項目の活動目標を設定していただくことを申請条件とします。

項番5(3)活動の目標とその成果目標の設定

活動の成果(アウトカム)目標(※2)については、助成期間終了後(1年後)にめざす活動の成果を明確にしたうえで、受益対象に対して生物多様性の保全上どのような価値を提供できたかを評価するための指標を設定してください。

(用語の定義)
・活動の目標(アウトプット)：
当該活動の直接の結果のこと。内容を数値で測定するための具体的な単位を示す。

・活動の成果(アウトカム)：
当該活動を通じて生じる受益対象の変化や向上を指します。助成期間終了後に、受益対象がどのような状態または状況になっていることをめざすのかを記入してください。

・指標：
内容を数値で測定するための具体的な単位を示す。

・実施前：現在の状態や状況を事前に把握したうえで、指標に基づく現状の数値(把握可能な範囲)を示してください。

・実施後：助成期間終了後に目標とする数値を示してください。

(留意点)
・環境学習活動や活動基盤強化(スタッフのスキル向上、マニュアル作成等)については、活動の成果(アウトカム)を参加者数の増加や環境意識の向上のみにとどめず、本事業の実施が生物多様性の保全・回復にどのようにつながるのかを踏まえ、団体内で検討のうえ、目標および指標を設定してください。

(4)活動の成果を測定するための手法の提案

前(3)で設定した活動の成果について、指標に基づき具体的に測定するための手法について記入してください。

<p>活動の成果 測定手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●事前調査（基礎調査～特徴理解） <ul style="list-style-type: none"> （１）個体数、開花個体数、結実個体数について、それぞれ定量的にカウントする。 （２）・・・ ●ステークホルダーとの連携強化 <ul style="list-style-type: none"> （１）既存の関係者が活動に参加してくださった回数を記録する。 （２）・・・ ●事後調査（モニタリング調査～順応的管理） <ul style="list-style-type: none"> 未確認種や誤同定の数、またそれらを発見した経緯なども合わせて記録する。・・・ ●担い手育成 <ul style="list-style-type: none"> （１）講習会などに参加してくださった回数、その回に参加した方が自分たちのフィールドで整備を行った回数や面積を記録する。・・・・・・
-----------------------	---

前(3)に示した指標に基づき、具体的にどのような手法を使って活動の成果を測定するのかにについて、具体的な方法を記入してください。その際、単に「●●調査を実施する」などとせず、無理なく回答が得られる方法、また、結果をどのように集計・分析するのかなど、その内容を簡潔に記入してください。

(留意点)

効果の確認に用いる生きもの(「指標種」)を設定している場合は、その種名と具体的な調査方法を記入してください。(例：モニタリングの頻度・時期・手法など)指標種を設定しない場合は、どのような方法で効果を確認するのか、具体的に記入してください。

6.助成期間中の活動スケジュールと推進体制

(1)活動スケジュール

活動スケジュールについて、事業ごとに分かりやすく、具体的に（5W1H※1を意識して）記入してください。

	年・月	活動計画
スケジュール 2026.9 ~ 2028.8	2026年〇月〇日（〇） 〇：〇〇～〇：〇〇	タイトル：保全地に関する基礎調査 内容：動植物調査、価値の把握、調査方法の共有 対象：保全活動者、次世代の担い手候補者 協力：〇〇、〇〇 場所：〇〇 方法：座学、現地 ねらい：該当種に関する基礎的な理解促進、保全への熱意や盗掘防止に関する意識の確認
	202X年〇月〇日（〇） 〇：〇〇～〇：〇〇	タイトル：新規ステークホルダーを交えた体験会 内容：〇〇、〇〇 対象：保全活動者、次世代の担い手候補者、新規ステークホルダー 協力：〇〇、〇〇 場所：〇〇 方法：座学、現地 ねらい：〇〇
	202X年〇月〇日（〇） 〇：〇〇～〇：〇〇	タイトル：モニタリング及び順応的管理の実施 内容：〇〇、〇〇 対象：保全活動者、次世代の担い手候補者、新規ステークホルダー 協力：〇〇、〇〇 場所：〇〇 方法：座学、現地 ねらい：〇〇
		・
		・

項番6(1)活動スケジュール

活動スケジュールについて、具体的に（5W1H：何を／いつ／何のために／誰がor誰に／どこで／どのように）記入してください。

（記入事項）

- ・実施活動名
- ・時期（いつからいつまで）
- ・ねらい、目的
- ・参加スタッフ、サービス提供者
- ・実施場所
- ・活動内容

※1 5W1Hは、What（何を）、When（いつ）、Why（何のために）、Who（誰が／誰に）、Where（どこで）、How（どのように）です。

活動のための実施体制（協力団体等を含む）について記入してください。

実施体制

```

graph TD
    A[実施団体○○] --- B[申請団体○○]
    A --- C[連携団体○○]
    A --- D[有識者○○]
    A --- E[アドバイザー○○]
    B --- C
    B --- D
    B --- E
    C --- D
    C --- E
    D --- E
  
```

The diagram illustrates the implementation system. At the center is the **申請団体○○** (Applicant Organization). To its left is the **実施団体○○** (Implementing Organization), which is connected to the Applicant Organization by a double-headed arrow. The Implementing Organization is also connected to three other entities: **連携団体○○** (Partner Organization), **有識者○○** (Expert), and **アドバイザー○○** (Advisor). Each of these three entities is connected to the Applicant Organization by a single-headed arrow pointing towards it. Additionally, there are double-headed arrows between the Implementing Organization and each of the three entities (Partner Organization, Expert, and Advisor).

活動に関する専門知識を持つ有識者とのネットワークがある団体は具体的に記入してください。

(企業・大学等所属・役職・氏名など)	想定する役割
〇〇保全の会 会長 〇〇	地域関係者との調整、地域での保全活動の実施
〇〇大学 教授 〇〇	対象種に関する科学的な調査・研究及び助言

(3) 団体外部のネットワーク

専門知識を持つ有識者とのネットワークがある場合は、当該団体の役職・氏名と想定する役割について、記入してください。

活動の状況やその成果を社会に広く発信するための情報発信計画について記入してください。

申請事業に関する 情報発信の計画	情報発信の内容及び頻度	媒体名	情報発信の受け手と想定する効果
	情報発信の内容：保全対象種の保全に関する活動内容 頻度：1回/3ヶ月	会報	情報発信の受け手：保全の会 会員 想定する効果：会の再活性化、実働参加者の増加
	情報発信の内容：保全対象種の保全に関するレポート 頻度：1回/年	データ媒体	情報発信の受け手：〇〇 想定する効果：先行研究事例としての採用、専門的知見の助言

項番7.情報発信の計画

- 活動の実施状況だけではなく、生物多様性保全の取り組みにより得られた成果を定量的・定性的に示された情報発信を期待します。
- 情報発信の内容は、地域メディアとの連携/報告書・レポートの公開/報告会・セミナー・研修の開催など、複数の媒体を通じた発信が望ましく、幅広く複数を試してください。

●団体が発信する情報は、受け手を意識した情報発信とし、受け手にとってどのようなメリットがあるのか。また、どのように周知することで、団体にもメリットがあるか、などを意識して記入してください。

8.助成期間終了後の活動の継続性・将来的な広がり

4(2)で設定したビジョンとミッションを実現するため、助成期間終了後に事業を継続、普及、発展させていくための工夫と、その工夫によって期待できる事業の広がりについて記入してください。また、助成期間終了後の維持管理のための実施体制について、申請書シート（2）に記入してください。

<p>助成期間終了後の活動の継続性・将来的な広がり (目安：各450文字程度)</p>	<p>①事業の継続性とそための工夫について</p> <p>助成期間2年間の取り組みを通じて、地域内外の人材育成・体制づくり・デジタルツールを用いた保全活動・地域の実情に即した保全管理計画の策定などの「持続可能な保全運営体制のための土台作り」を行っている。</p> <p>担い手育成については、事業初期から参加した人材を将来的な中核メンバーに求められる知識・技術（モニタリング手法等）として位置づけ、段階的に役割を担ってもらう仕組みを構築する。具体的には、中核メンバーに求められる知識・技術・調整力等を整理した「支援力確認シート」を作成し、求められスキル・到達状況を見える化することで、計画的な育成と役割移行を行う。これにより、助成期間終了後もサイトの認定維持に必要な調査・管理能力を継承できる体制を整える。また、担い手人材と地域住民、土地所有者、関係団体等が参加する「●●交流勉強会」を年〇回開催し、活動内容の共有や意見交換を通じて顔の見える関係性を構築することで、地域からの理解と信頼を高め、継続的な保全活動につなげる。</p>
	<p>②事業の将来的な広がり</p> <p>・〇〇市の生物多様性地域戦略の中で「民間地域における重点地域」への指定をめざし、市の施策の中に位置付けて予算に基づいた保全活動を行い、行政施策の中で継続的に保全活動を展開できる基盤の構築する。</p> <p>・該当地区がOECMとして自然共生サイトに登録された後は、企業等の多主体連携を促進し、民間参画による保全活動の広がりにつなげる。あわせて、認定〇〇マークを活用した地域の●●開発や、企業・一般向けの「環境教育プログラム」の展開を検討している。これにより、保全活動に必要な財源確保とともに、地域経済との循環を生み出し、持続可能な管理体制を構築することをめざす。</p> <p>・将来的には、本事業で構築した自主財源確保に向けた自治システムについて、その取組内容を説明会や勉強会等の場で共有し、同じ活動地域で保全活動を推進している他団体や他の保全エリアに共有する。これにより、点から線、面へと拡大したエコロジカルネットワークを形成し、ランドスケープレベルでの一体的な保全管理につなげていく。</p>

項番8①事業の継続性とそのための工夫について

●本事業について、助成期間終了後も継続的に活動を行うための取組について記入してください。あわせて、事業継続に向けた工夫、知見・ノウハウの普及・拡大の仕組み、ならびに担い手育成や資金調達等を含む、安定的な組織運営につながる取組について記入してください。

②事業の将来的な広がり

●「事業の継続性とそのための工夫」を通じて、具体的にどのような波及効果が期待できるのかについて、分かりやすく記入してください。

●本事業で得られた知見やノウハウを同じ分野で活動している他の団体へ共有する等、ロールモデルとなるような役割を期待しています。そのような役割を果たす上で必要と考える点、工夫してきたい点を記入してください。

9.申請助成金

(1)申請助成金額 3,000,000 円

(2)予算書

■収入		
区 分	金 額 (円)	内 訳
①申請助成金	300,000	
②自己資金※	342,000	自然体験プログラム参加費から充当
③その他の資金※		
合計	642,000	

※申請施策の実施にあたって、①に加え、②や③の自己資金等を支出する場合は必ず記入してください。
なお、同一の費用を重複して計上することはできません。

■支出 (1年目)

区 分	金 額 (円)		内 訳
	助成金 (①)	自己資金等 (②+③)	
委託費	500,000	0	〇〇大学〇〇先生 ・実地講座同行：20,000円/回×10回分=200,000円 ・現地調査主導：20,000円/回×5回分=100,000円 ・出張旅費：50,000円/回×3回分=150,000円 ・その他専門的助言（zoom等）：5,000円/回×10回分=50,000円
謝金費	250,000	0	〇〇の会 講義講師：20,000円/回×5回分=100,000円 実地講師：20,000円/回×5回分=100,000円 現地サポ-ト：一式=50,000円
人件費	450,000	100,000	NPO法人グリーンアース自然学校 講座運営：30,000円/名・日×全10回分=300,000円 活動内容まとめ及びレポート作成：30,000円/名・日×5日分 =150,000円
消耗品費	150,000	21,000	環境測定機器購入：100,000円 講座・実地研修用 用紙代・事務用品代等：5,000円/回×10回分
物品・資材購入費	100,000	0	備品（椅子・棚）：100,000円
資料購入費	50,000	50,000	書籍購入：50,000円
合計	1,500,000	171,000	

※募集要項の助成対象の経費について記入してください。以下の支出は助成対象外とします。

- ・助成決定金額の50%を超える人件費
- ・助成決定金額の 30%を超える物品購入費（デジタルカメラ、パソコン、タブレット、センサー など）
- ・通常の団体運営に関する経費（事務所家賃、光熱水費、定期刊行物発行経費など）
- ・1回のイベント等で終了する活動経費
- ・通信運搬費の電話料、プロバイダー料等の情報通信に関する経費
- ・助成対象事業から得られる収入（講師謝礼など）の他事業への充当
- ・当該団体の関連団体（団体構成員が役員などを兼務あるいは資本関係のある団体など）への委託
- ・自団体が支払い先となるような支出、その他M C Fが不適当と判断した経費

申請書項目9（2）予算書

助成対象経費

- | | |
|--------------|-----------------------------------|
| (1) 人件費 | 申請活動に従事する常勤スタッフ・アルバイト等への賃金 |
| (2) 謝礼金 | 外部から招聘した講師などへの謝礼金 |
| (3) 旅費 | 宿泊費、公共交通機関、有料道路料金 |
| (4) 物品・資材購入費 | 備品（椅子、棚、道具）、電子機器類、
資材（肥料、苗木）など |
| (5) 消耗品費 | 文房具、燃料費 など |
| (6) 会場費 | イベント会場などの借料 |
| (7) 資料購入費 | 書籍、文献などの購入費 |
| (8) 印刷費 | 検討資料、配布資料、報告書などの印刷費 |
| (9) 通信運搬費 | 郵便料金、宅配費など |
| (10) 業務委託費 | 専門家によるアドバイス、調査 など |
| (11) その他 | 上記項目に該当しない必要経費 |

※自治体の補助金や他団体等の助成金を活用する事業でも応募できます。なお、申請書への記載にあたっては、資金提供元、事業名、助成額等を、予算書収入欄の「その他資金」（内訳）に記入してください。ただし、同一の費用を重複して計上することはできません。

※造作物の設置や舗装等に活用する場合は、当該地域及びその周辺環境への影響に十分配慮するとともに、法令 や対象地域の条例を遵守することを条件とします。

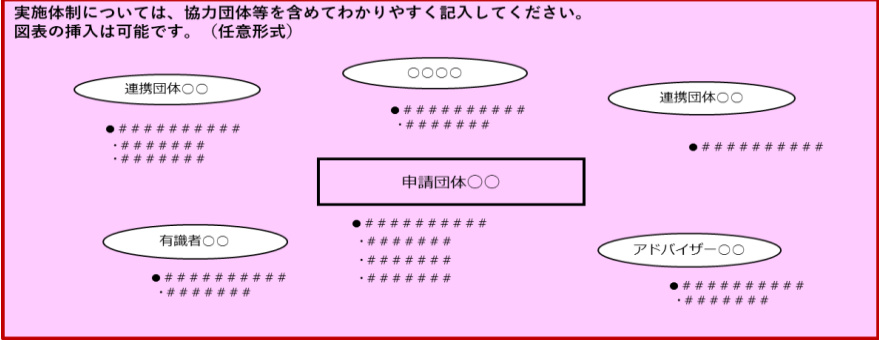
■支出 【2年目】

区 分	金 額（円）		内訳
	助成金 ①	自己資金等 ②+③	
委託費	500,000	0	〇〇大学〇〇先生 ・実地講座同行：20,000円/回×10回分=200,000円 ・現地調査主導：20,000円/回×5回分=100,000円 ・出張旅費：50,000円/回×3回分=150,000円 ・その他専門的助言（zoom等）：5,000円/回×10回分=50,000円
謝金費	250,000	0	〇〇の会 講義講師：20,000円/回×5回分=100,000円 実地講師：20,000円/回×5回分=100,000円 現地サポート：一式=50,000円
人件費	450,000	100,000	NPO法人グリーンアース自然学校 講座運営：30,000円/名・日×全10回分=300,000円 活動内容まとめ及びレポート作成：30,000円/名・日×5日分=150,000円
消耗品費	150,000	21,000	環境測定機器購入：100,000円 講座・実地研修用 用紙代・事務用品代等：5,000円/回×10回分
物品・資材購入費	100,000	0	備品（椅子・棚）：100,000円
資料購入費	50,000	50,000	書籍購入：50,000円
合計	1,500,000	171,000	

※募集要項の助成対象の経費について記入してください。以下の支出は助成対象外とします。

- ・助成決定金額の50%を超える人件費
- ・助成決定金額の30%を超える物品購入費（デジタルカメラ、パソコン、タブレット、センサー など）
- ・通常の団体運営に関する経費（事務所家賃、光熱水費、定期刊行物発行経費など）
- ・1回のイベント等で終了する活動経費
- ・通信運搬費の電話料、プロバイダー料等の情報通信に関する経費
- ・助成対象事業から得られる収入（講師謝礼など）の他事業への充当
- ・当該団体の関連団体（団体構成員が役員などを兼務あるいは資本関係のある団体など）への委託
- ・自団体が支払い先となるような支出、その他M C Fが不適当と判断した経費

8.助成期間終了後の活動の継続性・将来的な広がり【申請書 シート（2）】
③助成期間終了後の維持管理の実施体制（協力団体等を含む）について記入してください。

<p>実施体制</p>	<div data-bbox="427 255 1382 385"><p>本事業では、助成期間終了後も活動地域の多様なセクターと連携・協働しながら環境保全活動を推進していただくことを期待しています。生物多様性の保全の質を高めながら、「自然共生サイト」を持続的に維持管理できる実施体制（協力団体等）について団体内で検討のうえ、ご記入ください。</p></div> <div data-bbox="448 412 1331 750"><p>実施体制については、協力団体等を含めてわかりやすく記入してください。 図表の挿入は可能です。（任意形式）</p><pre>graph TD A([連携団体○○]) --- B[申請団体○○] C([有識者○○]) --- B D([アドバイザー○○]) --- B E([連携団体○○]) --- B</pre><p>The diagram illustrates the implementation system with the following components and their associated placeholder text:</p><ul style="list-style-type: none">連携団体○○ (Partner Organization):<ul style="list-style-type: none">●#####・#####・#####申請団体○○ (Applicant Organization):<ul style="list-style-type: none">●#####・#####・#####有識者○○ (Expert):<ul style="list-style-type: none">●#####・#####アドバイザー○○ (Advisor):<ul style="list-style-type: none">●#####・#####連携団体○○ (Partner Organization):<ul style="list-style-type: none">●#####</div>
-------------	--